

いちばん身近な文芸誌

編集・発行 **日本民主主義文学会**

TEL 03-5940-6335 FAX 03-5940-6339
メール info@minsyubungaku.org
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9 -202

民主文学 8

月号から新連載スタート

この機会に、
『民主文学』を
ぜひご購入くだ
さい。

民主文学

5

●柴垣文子「森の記憶」

田本真啓「キンシヨロ」
白武留康「和歌」
山形暁子「軍艦島」
岩崎剛
金 石純「戦時中のかげ」
下田城玄「兵隊のふりかへし」
馬場徹「多岐川 万葉集のこころ」
三浦光則「戦争と文壇」

塚原理恵さんの魅力の新連載小説！

こころの熾火

白衣の
シベリア行



塚原理恵（つかはら りえ）
本名 瀬戸井利江子

一九四四年群馬県生まれ。二〇〇四年まで公立病院で看護師として働く。月刊誌『民主文学』に、「酸素マスク」「ナースコール」「アンネのバラのように」など掲載。著書に短編小説集『孤独のかたち』（民主文学館）

看護師として長い間働き、今はケアハウスに暮らす野原チエには、シベリア抑留という体験があった。九十歳を前にしたチエは、テレビ局のインタビュアーに応じたことを契機に、過去と向き合うことになった。

一家揃っての満州への分村移民。陸軍病院で働きながら看護婦の資格を取得。八月九日、ソ連軍の侵攻により、軍服に着替え青酸カリを持たされての逃避行。ソ連兵が目の前で看護婦を連れ去った。やがてチエたちは兵隊たちとシベリアに抑留された。

それまで秘めてきた体験を語ることによって、チエの中でくすぶりが続けた無念や悔恨の思いが次第に熾火（おきび）をともしている。いのちも人としての尊厳も無残に踏みじった戦争の不条理を再び繰り返してはならないという思いを強めていくチエは、平和こそ最高の処方箋だと気づく。

筆者の言葉

私は長い間看護師として働き、看護現場を題材にして小説を書いてきました。

尊敬する先輩がシベリアに抑留されていたことを知った私は、彼女から話を聞きました。ソ連兵に追われながらの逃避行、シベリア抑留などなど、生きて帰れるとは思わなかったという体験は、余りにも悲惨で、掘り起こしは容易ではありませんでした。

戦争という大きな波に翻弄されつつ生きた、主人公野原チエに寄り添いつつ、話を紡いでゆきたいと思います。

★下の用紙を切り取って、FAXあるいは郵送でお申込ください。雑誌は直接ご自宅にお送りします。

購読申込書

申し込み

月 日

民主文学購読費 月額970円(送料込み)

FAX番号 03(5940)6339

いずれかに○印をつけてください。

- 8月号より定期購読する。
- 「こころの熾火」連載中期間のみ定期購読する。

お名前

ご住所 〒

電話番号